



学校だより

9月号

No. 475



ほんこう
(本校HPはここから)

よこはましりつつ だしょうがっこう
横浜市立都田小学校

れいわ ねん がつ にち
令和5年8月28日

人が集う喜びを ～『長い冬』に得たものを糧に～

ふくこうちよう ちば ひろおき
副校長 千葉 寛興

4年ぶりに行動制限が解除された夏休みとなりました。観光地や駅には家族連れや海外からの旅行者が多く集いました。各地でお祭りも盛大に行われました。本校の学区でも地域ごとに納涼祭等が行われました。本校の和太鼓クラブによる演奏や都田中学校生徒によるソーラン節の他に、子どもたちは盆踊りに加わり楽しんでいました。地域の方によると、コロナ前は踊りに小学生が加わっていたのを見たことがないとおっしゃられています。私にとってはその言葉は、多くの方の集う喜びを代弁するものだと感じました。

このような交流が盛んになったのは学校も例外ではなく、ゴールデンウィーク明けから全校集会や水泳学習が再開されました。私は7月に5年生の西湖宿泊体験学習に帯同しました。昨年度もこの学年の体験学習に参加したので、1年間で子どもたちがどのような変容を遂げたのか楽しみにしていました。

当日は天候に恵まれ、無事に全行程を終えることができました。私はこの『無事に』にということが子どもたちの成長を表すと考えています。『無事に』活動するには、入念に準備を進め、活動内容を仲間と共有し確実に実行することが求められます。さらに想定外の状況にも柔軟に対応できるように、目的や優先事項を理解しておくことも求められました。2日間、子どもたちは行程をしっかり把握し、見通しをもって活動していました。靴を揃え、荷物を片づけ、周りを気遣う様子も多くみられました。これらのことを学年で徹底して行うことは難しいものです。私は凡事徹底を貫いた5年生に、地に根を張るような確実な成長を感じました。

コロナ禍で社会が失ったものは多くあります。しかし同時に多くの大切な存在にも気づかされました。そしてそれは私たちが『長い冬』に得た多くの教訓でもあります。『長い冬』の寒さを嘆くのではなく、この間に子どもたちが得た知見を力に変えるべく、子どもと職員で人が集う喜びを共有していきたいと考えています。

7月11日(火)と12日に5年生は西湖まで宿泊体験学習に行きました。子どもたちは夏の富士を見晴るかし、充実したひと時を過ごしました。

